

第72回熊本県酪連通常総会開く



隈部 洋 会長

熊本県酪農業協同組合連合会の第72回通常総会が6月26日(木)、本会会議室にて開催されました。

総会では、隈部会長が「令和6年度は全国で生乳生産戸数が1万戸を割込んだ。県内でも24戸が廃業するなど厳しい状況であった。また、ランピースキン病も発生したが、国、県との協力体制により県内での発生を3戸に抑えることが出来た。乳価は8月から値上げされ、仔牛価格のほか副産物価格も上がってきており、少しずつ光も見えてきている。生産者には、引き続き経営努力をお願いしたい。本会の業績は各種生産支援を行いながらも、一昨年に匹敵する業績を残すことが出来た。日本でも有数の組織であり、今後もしっかり経営に取り組んでいく」と挨拶。国・県・関係団体の来賓祝辞に続き、苓北町農業協同組合の濱石和男組合長を議長に選任し、令和6年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書および剰余金処分案承認の件、令和7年度事業計画承認の件、役員改選の件など6議案が上程され、いずれも原案通り承認されました。第5号議案で可決承認された、新役員については次ページの通り。

【令和6年度事業概況】

令和6年度の我が国経済は、景気の緩やかな回復やインバウンドの復調、円安や物価対策での賃金上昇も期待され設備投資の押し上げ効果もあって景況感の回復がみられています。一方、第二次トランプ政権の大胆な政策展開に、中東・ウクライナ問題など、国際情勢は不安定な状況にあり、今後の動向が注視されています。

酪農界においては、飼料価格の高止まりや生産コストの高騰、副産物価格の低迷に加え、記録的猛暑による暑熱ダメージも重なり、全国の酪農家

戸数は1万戸を割り込むなど、厳しい経営状況が続いています。

乳業界では、牛乳乳製品の値上に伴う他飲料への消費動向もあって、飲用牛乳の需要は低迷しています。今後、脱脂粉乳の在庫低減対策の継続と新規需要の開拓、消費拡大に向けた理解醸成の取り組みが重要となっています。

このような状況のもと、本会は組織創立70年、らくのう牛乳発売50年の節目を迎え記念式典や販促企画、感謝祭開催などの周年行事を成功裏に執り行いました。

生産本部においては、暑熱対策指導や安全・安心な生乳確保に努めるとともに、酪農生産基盤の維持・強化対策として自給飼料増産と品質向上に向けた特別対策や酪農経営緊急支援対策を実施しました。また、飼養管理技術指導や各種補助事業の支援のほか、仕入強化による肉製品拡売に取り組みました。さらには、国内での初感染となるランピースキン病への対応・対策を実施しました。

乳業本部においては、価格改定による牛乳需要低迷のなか、沖縄向け牛乳の新規開拓をはじめ、販売促進の強化や学校給食の供給エリア拡大など、営業活動の強化により売上を伸ばしました。また、熊本工場増設冷蔵倉庫の運用を開始するとともに、充填機の更新ならびに環境に配慮した紙パック容器導入など、安全・安心な製造・品質管理体制の構築に努めました。

管理部門においては、新人事制度の構築とともに積極的な採用活動による人材確保、ならびに職員教育の充実を図りました。また、デジタル化による合理化やネットワーク環境の拡充とともに、



総会風景

各部門部署との連携・調整を推進しました。さらに、組織整備における組合事務処理の統一化を進めました。

特別会計（阿蘇ミルク牧場）においては、旅行代理店への誘客推進や特別クーポンの発行など営業活動の強化を図りました。また、堆肥処理の効率化やホームページ更新・SNS発信のほか、各種研修会の開催など理解醸成活動に努めました。

【令和7年度事業方針】

わが国経済は、世界経済のインフレ鎮静化や貿易持ち直しを背景に、雇用・所得環境改善のもと各種の政策効果もあり、緩やかな回復が続いています。

一方、米国における第二次トランプ政権の政策動向や中東地域・ウクライナをめぐる情勢に、国内の物価上昇や金融市場の変動など先行き不透明な状況が窺えます。

酪農界においては、飼料価格の高止まりやエネルギー、資材価格の上昇で生産コストの増加が続く、指定団体に出荷する酪農家戸数が一万戸を割るなど厳しい経営環境となっています。「農政の憲法」とも称される「食料・農業・農村基本法」が四半世紀ぶりに改正され、農業生産基盤確保に向けた輸出の促進、また合理的な価格形成や食料安全保障への強化がなされています。

乳業界においては、飲用向けおよび脱脂粉乳の需要が依然として低迷傾向にあり、今後も人口減少や少子高齢化、物価高騰に伴う乳製品価格への影響等により需要回復が懸念されます。これまで対策された需要回復への販路拡大や脱脂粉乳在庫の低減対策など、需給ギャップ解消に向けた継続的な取り組みが求められています。

このような状況のもと、本会は厳しい酪農情勢への対応や生乳需給および酪農経営の安定化、さらには生産基盤の維持・確保と強固な酪農組織態勢づくりにむけ、以下の事業を積極的に推進します。

生産本部においては、組織構成の再編による生産指導体制の強化と、自給粗飼料や搾乳後継牛の安定確保、家畜伝染病防疫対策や暑熱対策技術、生産コスト低減に向けた支援を図ります。また、指導・購買の事業推進や肉製品の販路拡大・有利販売に努め、酪農経営の収益力向上に取り組めます。

乳業本部においては、需要期の牛乳乳製品の安定供給および新規拡売や既存取引先との関係強化により売上拡大を図ります。また、消費者ニーズにあう安全・安心な製品づくりと製造効率化をすすめ、物流部門の再構築やトレーサビリティシス

テムの推進、品質保証レベルの向上に努めます。

管理部門においては、職員能力を発揮できる職場環境づくりに、新人事制度の運用を開始します。またコンプライアンス態勢の整備や財務体質の強化とともに本会基幹システムの基盤改良やICTを活用し、各部署連携・調整による業務の円滑化を図ります。さらには将来の持続的発展を目指した組織整備を推進します。

特別会計（阿蘇ミルク牧場）においては、酪農・乳業の理解醸成施設として開業25周年にあたり、生産性向上や収益改善のための更なる機能強化を図ります。また、来場者の満足度向上のための運営態勢や魅力ある施設づくりを進めます。



議長：濱石 和男 組合長

新役員名簿

役職名	氏名	所属組合名
代表理事会長	隈部 洋	鹿本酪農農業協同組合
副会長理事	山本 健二	大阿蘇酪農農業協同組合
副会長理事	森 正晴	菊池地域農業協同組合
代表理事専務	大川 清治	実務精通者
常務理事	小池 泰隆	実務精通者
理事	大村 英治	玉名酪農農業協同組合
理事	森本 高司	八代地域農業協同組合
理事	村田 輝幸	球磨酪農農業協同組合
理事	衛藤 彰一	熊本酪農農業協同組合
理事	松野 隆	上益城農業協同組合
理事	津田 恵美	菊池地域農業協同組合
理事	真鍋 義貴	熊本市農業協同組合
代表監事	村上 久幸	菊池地域農業協同組合
監事	岩見 誠也	ホワイト酪農農業協同組合
常勤監事	廣田 浩治	実務精通者

(敬称略)

令和7年度 第1回酪農後継者育成塾の開催

生産本部 経営支援課

去る5月29日、13年目となる歴史ある酪農後継者育成塾が、令和7年度第1回目として開催され、30名が受講しました。



小池常務

冒頭では、らくのうマザーズ小池常務より県内の出荷戸数や生乳生産状況、昨今の酪農を取り巻く情勢について話がありました。また、これから酪農を担っていく受講生

に向けて激励の言葉がありました。

第1回目は、講演の前に受講生皆様から自己紹介をしていただきました。初めて受講された方も多く、自己紹介では、『名前・牧場名・就農年数・趣味や最近うれしかったこと』などを30秒程度で話していただきました。

今回の講演は、「生乳生産者研修」と題し、生乳の異味異臭体験プログラムを用いて公益財団法人日本乳業技術協会の大嶋秀克氏よりご講演いただきました。



大嶋秀克氏

初めに、大嶋氏より生乳の官能評価についての説明や生乳の風味に対する主要素について話がありました。

生乳は生きた牛から得られる天然物のため、牛が飼われている環境や飼料によって個々のばらつきがある事を説明された上で、牧場内で起きうる異味異臭の発生要因について説明があり、実際に

サンプル乳を用いて体験していただきました。

①牛乳の5味識別（甘味・塩味・酸味・苦味・旨味）

②主な異味異臭の体験

（麦芽臭・酸化臭・青草臭・牛舎臭・ランシッド臭・塩素臭）

臭いを感じやすいよう常温にしたサンプル乳には、味や臭いが添加されており、実際に口に含み感じた違いを同じ班の方々と共有し、意見交換を行っていただきました。

受講後のアンケートでは、「初めての体験でも興味深かった」、「勉強になった」、「楽しかった」、「今後、自分の牧場でも臭いを確認してみたくなった」、「エサから臭いがつくことを知らなかったので今後自給飼料の品質に注意しようと思った」との多くの意見をいただきました。



研修の様子



今年度も後継者の方々の交流と学びの場を目的とした研修を全5回開催予定しています。ご興味のある方は担当者までお問い合わせください。

（経営支援課 096-388-3516 担当：井上）

COLUMN —コラム—

「システムは人が動かす」 — 電算化からDXへ 変わらぬ本質 —

昨年は猛暑日・熱帯夜が50日を超える記録的な猛暑で、厳しい夏を過ごされたと思います。今年、観測史上最も早い梅雨明けとなりましたが、今夏が冷涼な気候となることを、心より願っております。

はじめまして、管理本部の高本と申します。略歴は、昭和61年に入会、当時の熊本営業所、中四国営業所、福岡営業所で営業を担当、平成元年に電算課、その後、営業課、経営管理課、情報システム課と、乳業・管理業務に従事しております。

今回は、マザーズの情報システム（電算）の歩みについて、少しご紹介します。県酪連では、昭和59年に大型汎用コンピュータ2台を導入し、販売管理、会計、給与をはじめ、乳代精算、購買など各事業・業務の電算化を開始しました。

ちょうどその頃は、PC-98やMS-DOSのパソコンが企業や家庭に普及しはじめた時期に重なります。「ロータス1-2-3」や「一太郎」等のOAソフトが業務処理に活用され、手書きや手計算、転記といった手作業から、事務効率が飛躍的に向上しました。

当時、組合の実務担当の皆さんと、乳代精算や販売・購買業務の合理化に取り組みました。乳代精算では、控除項目を手計算し、個人ごとに手入力した後、計算、検算・転記と手間のかかる仕事でした。

パソコンを導入して、データの入力・処理・出力、さらにはデータのフロッピー取込等、入力負荷も軽減され、作業時間・労力が一気に省力化できました。

時には、「パソコン買うたけん、合理化して」と相談があって困惑することもありました。何を目的にどう活用するのが明確でないと、パソコンは“ただの箱”になりますし、それを操作できる人がいて、はじめて効果が発揮されることとなります。

いまでは、システム化が当たり前になりましたが、一方では、古いまま更新されていないもの、

ブラックボックス化して、誰も中身がわからないと云うシステムも存在します。加えて、昨今では、セキュリティ上のリスクが激増しており、多方面での知識・対応対策が重要となっています。

DX、AI、ICT…と技術は進化していきますが、それをどう活かすかが重要となっています。そのためには人がどう関わって、どう使いこなすかがカギになります。

今も昔も「システムは人が動かす」というのは変わりません。どんなに優れたシステムでも、それを正しく使いこなさないと、良い結果はもたらされません。

「システムは人が動かす」——

技術に頼りすぎず、人の知恵と責任が、これからも重要であることを、改めて実感しています。

会員・県下酪農家の皆さんも牛群・飼養管理のほか、ロボット等いろいろなシステムを駆使して合理化を図られていることと思います。

現在、マザーズ情報システム課では、若手精鋭5名体制でICT関連のほか、業務の効率化、システムの安定運用に向けて、日々、取り組みを進めています。より、強固な総合酪農組織として、会員の皆様の負託に応えるべく努めてまいります。



らくのうマザーズ
管理本部長
高本 一樹



酪農家の皆様へ

令和8年度生乳委託に係る申出の期限を設定しました。

令和8年度に向けた期限: 令和7年9月30日

本期限の対象となる申出: 令和8年度生乳委託計画において令和7年度の計画よりも3,000t以上多い生乳の出荷を希望する申出

- 畜産経営の安定に関する法律（畜安法）施行規則第19条では、指定事業者が生産者からの生乳委託に係る申出を拒める正当な理由として、「生乳の取引の安定を図る観点から第1号対象事業を行うための準備に要する期間を勘案して定めた申出の期限を経過後に申出」されたケースが規定されています。
- 指定事業者である九州生乳販連としては、生乳販売に影響を及ぼすほどの増量については、乳業メーカーとの取引交渉を行ううえで早期に情報の把握を行うことが望ましいとの考え方から、令和8年度生乳委託に係る申出の期限を設定しました。
- 令和8年度生乳委託計画において令和7年度の計画よりも3,000t以上多い生乳の出荷を希望する場合は 令和7年9月30日までに生乳委託計画のご提出をお願いします。
- 本期限の対象となる申出が期限を過ぎていた場合は生乳委託に係る申出をお断りします。

九州生乳販売農業協同組合連合会

畜安法施行規則第 19 条ってなに？

畜産経営の安定に関する法律（畜安法）施行規則第 19 条では、指定事業者が生産者からの生乳委託に係る申出を拒める正当な理由として、以下のような事項が定められています。

- ・ 季節的な変動要因を超えた増減
- ・ 短期間の取引（年末年始のみ等）
- ・ 生乳の取引の安定を図る観点から第 1 号対象事業を行うための準備に要する期間を勘案して定めた申出の期限を経過後に申出
- ・ 特定の用途への生乳販売（特定の用途・乳業への販売を条件とする場合等）
- ・ 生乳の品質が基準に不適合
- ・ 合意なく約定の数量から大幅に増減、等

生乳委託計画ってなに？

次年度における毎月の生乳生産量、委託生乳量、委託割合及びそれぞれの日量等を記載した計画のことで、様式は以下のとおり（例）です。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
生乳生産量(kg) ①													
日量(kg/日) ②													
委託生乳量(kg) ③													
日量(kg/日) ④													
委託割合(%) ③÷①													
委託割合(日量)(%) ④÷②													
差(kg) ①－③													
集乳頻度 (毎日:毎、隔日:隔)	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	毎・隔	

繁殖成績向上と業務改善の両立

技術課 南 僚

繁殖性と検診業務の改善を目的としたミルク牧場での12か月の調査が完了しましたので、データ処理や考察が未だ荒いですが報告します。

【背景】

昨今の酪農情勢からも、繁殖性の改善は生産性向上のために喫緊の課題といえます。家畜改良事業団のホームページ (<https://liaj.lin.gr.jp/cowexam/cownew/herd-average-weather-info>) では、各都府県の牛群検定平均を月ごとに閲覧できます。私が調査を開始した2024年5月を開いてみると熊本県は繁殖に関して、まだまだ改善の余地がありそうです。(表1)

	搾乳日数	空胎日数	分娩間隔	授精回数	初回授精開始	発情発見率
2024.5 熊本	218	167	442	2.4	84	48.5
目標値	160	100	360	—	—	60以上

表1. 2024年5月の熊本県年間平均成績と目標値

具体的な改善点を炙り出すために発情発見率を出してみると48.5%と低水準であり、受胎機会を逃しているという課題があるようです。(本稿での発情発見率は“相原光夫. 今日も明日も牛群検定が約束するあなたの酪農経営！. デーリィ・ジャパン社”にある算出法になります。発情発見率 = 年間平均授精回数 ÷ {(年間平均空胎日数 - 年間平均分娩後初回授精日数) ÷ 21 + 1})

ここで少々発情発見率についてお話しすると、ある牧場に子宮回復が済んだ空胎牛が100頭いるとします。次回の発情周期である21日後までに100回AIやETを実施できるはずですが。そのうち何回AIやETを実施したのか？というのが発情発見率です。48.5%だった場合は50回以上授精するチャンスがあったのに、みすみす逃しているということです。例は100頭でしたが、熊本県下となるとすごい数になります。

発情発見率を改善するためには発情をしっかり観察することが重要です。しかし、発情の不顕性化や獣医師不足により、定時人工授精の活用が近年積極的に行われています。また、獣医師の繁殖検診を月2回とすることなどがあげられます。しかし、獣医師の慢性的な不足により現実的ではありません。

そこで今回、不受胎牛を早期発見し、治療と再授精を実施するプロセスを提案、導入しました。結果、見た目の発情発見率が向上し検診業務も効率化されました。獣医師の定期的な繁殖検診を待たずとも不受胎牛の繁殖治療を実施でき、未受胎牛はこの行程を繰り返すループの中にいるため検診日の検診頭数が少なくなり、検診業務の軽減も狙うことができます。本手法は限られた獣医療資源や生産労働資源を活用した実践例として他の牧場でも応用可能と考えられます。

【方法、行程】

対象：阿蘇ミルク牧場の経産牛

試験期間：2024年5月～2025年4月を期間T

比較期間：2022年5月～2023年4月を期間C 1、2023年5月～2024年4月を期間C2

手順：フレッシュチェック完了後、定時人工授精の一つであるG6Gオブシンク（大澤健司.牛の排卵同期化・定時人工授精プログラムの現状と最近の進歩.<https://jvma-vet.jp/mag/06509/b1.pdf>）を開始しました。人工授精から28日後にPAGs検査を実施し、－判定牛は獣医師に処方を受けたうえでG6Gオブシンクを開始しました。これを繰り返し三回目の－判定となった牛は次回検診でヨードを子宮内に注入し再度、上記の行程を繰り返しました。ショートシンクを適宜活用し、発情発見率をさらに向上させました。

【結果】

発情発見率：34.8% → 64.0%と改善しました。（表2）

受胎頭数：月平均・年間合計ともに増加しました。（表3）

業務効率：検診頭数が減少し、業務の負担軽減を達成しました。（表3）

繁殖成績：牛群全体の搾乳日数、空胎日数が有意に改善しました。（表4）

乳生産：全体で改善なく、ホルスタイン単独でも変化は認められませんでした。（表4）

	R6.5	R7.5
授精回数	2.5	2.5
初回授精	83	90
空胎日数	213	151
発見率	34.8	64.0

表2. 試験開始と終了時点の発情発見率など

MOTHER'S

月	検診頭数			経産牛受胎頭数		
	期間C1	期間C2	期間T	期間C1	期間C2	期間T
5	16	23	14	1	1	3
6	25	36	13	0	2	6
7	15	20	13	3	2	5
8	44	23	1	0	0	0
9	25	26	6	3	2	1
10	54	23	10	2	3	3
11	28	21	12	6	3	4
12	22	22	12	4	1	4
1	31	21	19	3	3	2
2	36	15	16	5	3	0
3	31	28	18	0	2	4
4	29	15	16	3	2	2
平均	29.7	22.8	12.5	2.50	2.00	2.83
合計	356	273	150	30	24	34
牛群頭数平均	59.3	51.5	51.0	59.25	51.5	51

試験期間：期間T 2024年5月～2025年4月

比較期間：期間C1 2022年5月～2023年4月

期間C2 2023年5月～2024年4月

表3. 期間C1、C2、Tにおける検診頭数と受胎頭数の推移

		搾乳日数	空胎日数	分娩間隔	乳量
牛群平均	C1・C2平均	282.1 ^a	189 ^a	440.7 ^a	27.5
	期間T	236.1 ^b	156.2 ^b	466.8 ^b	27.6
ホルスタイン のみ	C1・C2平均	264.6	156.9	441.3 ^a	31.6
	期間T	245.8	148.4	485.4 ^b	31.1

※a、b間に有意差あり (p<0.05)

表4. 期間C1、C2の平均と期間Tの繁殖成績および乳量

【考察】

発情発見率を改善する目的で、定時人工授精を導入したことで牛舎での経験が少ないスタッフでも授精の機会を逃すことが少なくなり、受胎頭数は増加しました。また、獣医師の繁殖検診を待たずに不受胎牛の繁殖治療を実施でき、未受胎牛はこの行程を繰り返すループの中にいることで検診日の検診頭数が少なくなり、結果として一回の検診頭数は減少しました。このように、本調査では繁殖成績を改善しながら検診業務の改善も同時に達成しました。獣医師の業務効率に加え、スタッフが検診に立ち会う時間を短縮することができました。

一方で、繁殖成績は改善できたものの乳生産に有意差はありませんでした。また、ホルスタインの生産性は本牧場の収益性に直結するとも言えます。要因は二つ考えられます。一つ目は、A2ミルクの研究のため、後継牛にはA2遺伝子が求められ自ずと後継牛を産出する個体が限られる事に加え、品種によっては近交係数が上がり、受胎も難しい個体もあります。そのため、非常に長期的な牛群改良が必要であり、本調査のような12か月という中期的なものでは、生産性に影響が出なかったと考えられます。二つ目は、乾乳スペースが少ないことです。乳量が少ない牛から乾乳していくため、特に乳量の多いホルスタイン種は後回しとなり乾乳期間が短くなるため、搾乳日数や乳量などの平均値が見かけ上、改善されず横ばいになっていると考えられます。

【まとめ】

PAGs検査と定時人工授精により繁殖成績と検診業務を同時に改善することができました。

今回報告した方法は無機質で機械的な印象を与えてしまうかもしれません。獣医師や牧場スタッフが不足している牧場では、こういったやり方に頼るのも一つの方法だと思います。今後の発展のために将来的には、技術者と生産者全員でさらに問題点を発見し、共通認識としたうえでより検診などの技術的な支援を受ける頻度を増やす必要があるかと思います。

与えられた現状で成果を出すための一助となることを期待してご報告いたしました。ご活用いただけたら幸いです。

令和7年度ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン ～『牛乳贈呈式』を実施しました！～

「ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」の一環として「父の日」である6月15日（日）に先駆けて、6月5日（木）に熊本県酪農女性部協議会の役員を中心に熊本県庁および九州農政局を訪問し、木村知事・緒方農政局長へ牛乳の贈呈を行いました。今年度は牛乳（阿蘇の雫）と山の未来舎（山口牧場）のチーズを関係者の方々に振舞いました。用意したチーズに関しては、「癖がなくトマトとの相性が良い。」と満足そうに食べられていたのが印象的でした。牛乳・乳製品の魅力をアピールすることができ、さらに牛乳生産に携わるやりがいを再認識できるひと時となりました。



1. 県庁



2. 知事贈呈



3. 県庁集合写真



4. 九州農政局長贈呈



5. 九州農政局贈呈



6. 九州農政局集合写真

第三回熊本県ホルスタインショウ開催される

出品頭数 未経産牛26頭、経産牛 14頭、出品者16名及び3高校

ジュニアチャンピオンに松島太一氏（熊本酪農協）所有牛（号名申請中）

リザーブジュニアチャンピオンに（有）田牧場（ホワイト酪農協）所有のKM サイドキック ジャムパン号

グランドチャンピオンに若杉尚彦氏（鹿本農協）所有のTMF アルマーニ スカイ RED ET号

リザーブチャンピオンに竹内太輔氏（菊池地域農協泗水支所）所有のレガーレ ロートラスト エデン号

去る、5月31日（土）益城町のJA熊本市畜産センターで、熊本県乳牛改良同志会主催による第三回熊本県ホルスタインショウが開催されました。

当日は初夏の好天に恵まれ、西本道靖同志会会長の『今年は北海道全共も開催されるため、この大会で弾みをつけていただきたい。』との挨拶に続き、県内各地から40頭が出品され、熱戦が繰り広げられました。

今回の審査は（一社）家畜改良事業団 熊本種雄牛センター場長の門脇賢治氏が務められ、公正かつ厳格なジャッジのもと、第1部から第10部の序列付けが行われました。

経産牛グランドチャンピオンに第10部出品の若杉尚彦氏（山鹿市支部）所有牛TMF アルマーニ スカイ RED ET号、未経産牛ジュニアチャンピオンには第2部出品の松島太一氏（熊本酪農支部）所有牛（号名申請中）が選ばれました。

また、第2部審査の際には、学生を対象とした序列予想や酪農家子弟によるジュニアショウが開かれるなど、大いに盛り上がった大会となりました。



西本会長



門脇賢治氏



TMF アルマーニ スカイ RED ET号

